

## つきたい力

- ① 自分の考えの軸を形成するちから
- ② わかりやすく相手に伝えるちから
- ③ 試行錯誤するちから

## 取組みの概要・ポイント

- 教材研究シートを通して自分の考えの軸を形成する力・わかりやすく相手に伝える力を伸ばす  
授業アップデートを学校全体でおこなう
- 改善ポイントを子どもが気づき、試行錯誤を通して主体的に学習に取り組む態度を評価する

## 具体的な取組みの内容「3つのつきたいちからをつけるための取組み」

現状：全国学力学習状況調査の結果より  
条件が抜けていたり、場面に適さない記述が見受けられる。

現状：太子町子ども意識調査・全国学力・学習状況調査より  
⇒粘りよく取り組む項目に関して課題がある

### ①自分の考えの軸を形成するために教材研修シートの活用

- 各単元において、つきたい力の明確化のために教材研究シートの活用  
→単元の指導事項を確認  
→学習指導要領の巻末付録教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表  
→指導要領解説

#### 教材研究シートを通して 授業アップデートを学校全体で

- 教材研究シートを用いてつきたい力を設定  
1：その力が付くような授業プランを作成  
2：その力が付いたのかを評価する  
3：日々の授業づくりに生かす  
(ブロック相互参観で使用)

#### 逆向き設計 の 授業づくり



各学年の教材研究シートや  
実践報告のシートはこちらから

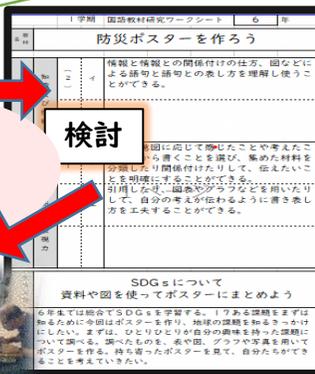


実践

PDCA  
サイクル

検証

検討



### 辞書を引く感覚で 指導要領を活用！

### ②わかりやすく相手に伝えるちからの育成 ③試行錯誤するちからの育成

- わかりやすく相手に伝えるちから  
1：磯長小学校全体として工夫する視点を統一する  
→言語活動の**相手、目的、状況**を設定  
2：子どもがよりよく表現できるように指導する

#### ○試行錯誤するちからについて

- ①：言語活動をふまえて児童がどのように試行錯誤できるかを想定する
- ②：試行錯誤するちからはその活動の主とする力を付ける場面や  
最も児童に頑張ってもらいたいところで評価する

### 3：モデル授業を全員で参観

### 4：研究授業・学校公開



各学年の学習指導案や  
言語活動の様子ははこちらから

#### 試行錯誤するための手立て 例

不十分or十分なモデルを示す

子どもが自分で  
改善点に気づく → 練り直す  
(試行錯誤)

評価

## 取組みを通しての子どもの変容

- 校内国語アンケート結果より「国語の学習が好き」だと答えた児童が69.6%→70.7%と上昇した。これは、言語活動を通じた学びの中で、意欲的に学習を進めることができたからである。
- 児童自身も校内国語アンケートによると、「友だちにわかりやすく伝えることができていると思う」と答えた児童は70.9%→74.1%と上昇した。  
相手、目的、状況を意識した言語活動を設定することで、児童がわかりやすく相手に伝える力がついたと考える。
- 本校教員の授業後の感想より、少しずつではあるが児童が練り直す（試行錯誤する）姿が見られるようになった。